

平成25年度 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
運営懇談会（第12回）議事概要

平成25年9月17日（火）
13:30～15:30

1. 開会
2. 理事長あいさつ
3. 議事
 - (1) 厚生労働省独立行政法人評価委員会関係について
 - ① 平成24年度業務実績に係る評価結果の概要
 - ② 第2期中期目標最終評価結果の概要
 - (2) 入所利用者の死亡事故について
 - (3) 障害児通所支援センター「れいんぼ～」について
 - (4) 就労支援事業について
 - (5) 国立のぞみの園10周年記念事業について
 - (6) (福)友愛会の最近の状況について
4. 閉会

【議事に対する主な質疑（○：委員、●：のぞみの園）】

- (1) 厚生労働省独立行政法人評価委員会関係について
 - のぞみの園が、矯正施設等を退所した知的障害者などの支援に努力をしているのは分かる。今後の目標を持っているか。また、今後の受入に当たっての問題点はあるか。
 - 今後の方向性としては、矯正施設等退所者、行動障害を有する者など支援が困難な者を受入れ、モデル的な支援を行うこととしており、第3期中期目標では、厚生労働省からもそのような指示があった。
また、第3期中期目標期間では、モデル的な支援として受入者数を増やすことを考えているが、新たな受入は限定的で、年間5～6人程度が適切と考えている。
発達障害者への支援も課題となっているところであり、事業を幅広く実施したい。
のぞみの園の施設運営、調査・研究、養成・研修の三つの事業を総合して取り組みたい。
 - 知的障害者の再犯率が高い。刑務所に入れない対策として、何かできないかと思っている。再犯防止の観点からも多くの方の支援を是非お願いしたい。
 - のぞみの園では、矯正施設等退所者を受入れて支援し、地域に戻っていただくことを目指しているが、どんな方でも受け入れられるわけではない。地域で何とかサポートされている方は、まず、地域での対応が必要。のぞみの園としては、福祉的なアドバイスができたらと考えている。

- 矯正施設等退所者の支援について、少年院の退院者も受け入れているか。
- 24年度は、新規6人の内、少年院から2人受け入れた。家族が犯罪に関わっていて親元に帰せない事例など支援が難しい事例がある。また、関係機関からの少年院退院者の相談も受けている。
- のぞみの園で支援した矯正施設等退所者は、家族のもとに帰る方が多いのか。
- 自宅へは難しい場合もあるが、出身の地域へは戻っている。
- 地域移行者が150人であったが、資料4の3ページに「出身地での地域生活のためののぞみの園を退所」とあるように、その後の定着支援としてのフォローアップはどのように行っているか。
- フォローアップは、地域移行した150人について行っている。特に、地域移行後1年以内の方々へは、地域移行先の事業所と連携することや、当法人の職員が出向くことなどを行っており、移行先にのぞみの園での状況を伝えることなどのフォローアップをしている。

(2) 入所利用者の死亡事故について

- 夜間の支援は適切であったとのことであるが、全く問題は無かったのか。
- 夜間の見回りは、利用者の所在などの確認のために行っている。亡くなった利用者は布団をかぶって就寝しており、布団をめくってまでの確認はしなかった。布団をめくると起きてしまうこともあり、睡眠の妨げになるため行っていない。
- 全国的にこのような事例はあるのか。
- 情報収集は行っていない。おそらく統計データはないのではないかと。
ホームページなどに、事故概要、再発防止策を掲載しているところもあるので、それらの例を目にすることはある。

(3) 障害児通所支援センター「れいんぼ〜」について

- 利用の期間の定めはあるか。
- 事業により、対象となる年齢の違いはある。
- 利用者はこの地域の方なのか。PRはしているか。
- 直営の診療所で児童精神科医による外来診療を行っており、療育支援を受けた方が良いと判断した場合に利用となる。口コミによるところもある。
- 運営の問題点は何かあるか。
- 4月に事業を開始したところであり、まだ試行錯誤的などころはある。利用登録が少な目になっている曜日もあるが、軌道にのればフル稼働したい。

(4) 就労支援事業について

- 今後の事業展開をどう考えているか。
- 利用者のニーズに対応した事業所としたい。事業の採算性を考え、また、利用者

の工賃の確保ができるようにしたい。

- 街中の事業所なので画期的である。販売するのは主に酒まんじゅうとなるのか。プロの指導を受ける必要があるのではないか。
- そのとおりであり、プロの指導を検討している。
- 地域における就労支援ということで評価されるものと思われる。

(5) のぞみの園10周年記念事業について

- 是非、成功されることを望む。

(6) (福) 友愛会の最近の状況について

意見等なし

以 上